お客様各位

2026年11月4日
北興化学工業株式会社

変更登録のお知らせ

平素より弊社製品をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、2026年11月4日付で下記農薬の適用が変更登録されましたので、お知らせ致します。

農　薬　名

第２４９１８号　*カクシンフロアブル*

変更の内容

- 作物名「直播水稲」を追加する。
- 作物名「移植水稲」の適用雑草名に「多年生広葉雑草」を追加し、「マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ」の記載を削除する（シズイの追加に伴う記載変更)。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植直後～ ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで	500 ml/10a	１回	原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ノビエ3葉期但し、収穫90日前まで			原液湛水散布、 又は 無人航空機による滴下

イプフェンカルバゾンを含む農薬の総使用回数	ジメスルファゼットを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数
２回以内	２回以内	２回以内

安全使用上の注意事項（追加）

【変更後】
（2） 使用に際して講ずべき被害防止方法
ア 農薬使用者に係る被害防止方法
① 防護装備
［薬剤調製者］
移植水稲、直播水稲：農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣

［散布者］
移植水稲、直播水稲：農薬用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣

農薬の使用上の注意事項（変更）

【変更後】
(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。

(2) 使用前に容器をよく振ってから使用すること。

(3) 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように処理すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に処理するように注意すること。
ホタルイは3葉期まで（直播水稲は2葉期まで）、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカはヘラ葉期まで、ミズガヤツリは草丈10cmまで（直播水稲は草丈17cmまで）、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは草丈10cmまでが本剤の処理適期である。

(4) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。

(5) 苗の植え付けが均一となるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。

(6) 処理に当っては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に処理し、少なくとも 3～4 日間は通常の湛水状態(水深 3～5cm)を保ち、田面が露出しないようにすること。処理後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。
自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。

(7) 本剤を水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（湛水深 3～5cm）に達した時に必ず水を止め田面水があふれないように注意すること。処理後３～４日間は通常の湛水状態(水深３～５cm)を保ち、処理後７日間は落水、かけ流しはしないこと。

(8) 本剤を無人航空機による滴下に使用する場合は次の注意を守ること。
① 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
② 滴下にあたっては散布装置のノズルを取り外すこと。
③ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他の装置の十分な点検を行うこと。
④ 隣接するほ場に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
⑥ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
⑦ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。

(9) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
① 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深 2cm／日以上）
② 軟弱な苗を移植した水田
③ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
④ 処理後に高温傾向が続くと予想される時
⑤ 稲の根が露出している水田

(10) 活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。

(11) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。

(12) 処理田の水田水を他の作物に灌水しないこと。

(13) 著しい多雨条件では、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。

(14) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

変更登録後の製品情報の詳細はこちら（農薬製品・安全データシート（SDS）一覧）からご参照ください。

以上